

これまでに開催したセミナー/業績など

セミナー(研究分野セミナーを含む)

開催日	セミナー名	タイトル	講師
2025年4月10日	がん進展制御研究所セミナー	クローン性造血と各種疾患との関係性の解析	神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター 東京大学薬学部分子腫瘍薬学 北村 俊雄 先生
2025年4月24日	がん進展制御研究所セミナー	スマート分子がん創薬～低分子Magic Bulletの開発～	スマート分子がん創薬研究分野 池田 豊 先生

受賞/表彰

2025年5月11日	腫瘍細胞生物学研究分野・石橋公二郎助教が、一般社団法人 日本炎症・再生医学会 次世代リーダー育成委員会FLY-IRが主催するJSIR次世代リーダー育成スクール 2025年5月8日(木)～11日(日) (奄美大島)において、日本炎症・再生医学会 次世代リーダー賞(ベストプレゼンテーション賞)を受賞しました。
2025年5月30日	分子病態研究分野・本宮綱記助教が、第11回がん代謝研究会2025年5月28日(水)～30日(金)(草津)において、ポスター賞を受賞しました。
2025年6月29日	腫瘍細胞生物学研究分野・Peter Wai Tik Lee特任助教が、第29回癌治療増感研究会2025年6月28(土)～29日(日)(浜松)において、第25回 国際研究奨励賞を受賞しました。

論文業績

掲載月	内 容
2025年3月	機能ゲノミクス研究分野・鈴木隆介博士研究員、鈴木健之教授らと、国際基幹教育院GS教育系・滝野隆久教授らの共同研究による、m6Aリーダー IGF2BP3によるSNAI2制御を介した肺腺癌細胞のゲフィニブ耐性に関する研究成果が、Gene Reports誌に掲載されました。 ■タイトル: m6A reader IGF2BP3 contributes to gefitinib resistance in lung adenocarcinoma cells by modulating SNAI2 expression
2025年4月	遺伝子・染色体構築研究分野・荊泳瑋博士研究員、小林昌彦助教、上野将也助教、田所優子助教、平尾敦教授らの共同研究による、転写因子 TFE3 によるリソソーム活性化とアミノ酸リシン依存性を標的とした治療抵抗性克服に関する研究成果が、Nature Communications誌に掲載されました。 ■タイトル: Lysine-arginine imbalance overcomes therapeutic tolerance governed by the transcription factor E3-lysosome axis in glioblastoma
2025年4月	東京大学医科学研究所・中西真教授と、がん・老化生物学研究分野・城村由和教授らの共同研究による、がんにおける間質老化細胞関連のシグナルネットワークに関する研究成果が、Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America誌に掲載されました。 ■タイトル: Signaling networks in cancer stromal senescent cells establish malignant microenvironment
2025年4月	九州工業大学・青木俊介教授とゲノム生物学研究分野・酒井克也准教授らの共同研究による、新規抗がん剤候補として肝細胞増殖因子HGF阻害剤のインシリコ創薬に関する研究成果が、Molecules誌に掲載されました。 ■タイトル: Identification of Novel Compounds That Bind to the HGF β -Chain In Silico, Verification by Molecular Mechanics and Quantum Mechanics, and Validation of Their HGF Inhibitory Activity In Vitro
2025年4月	東京大学生産技術研究所・松永行子教授と、腫瘍遺伝学研究分野・大島浩子准教授、大島正伸教授らの共同研究による、がん細胞の集団的血管浸潤に関するイメージング研究成果が、iScience誌に掲載されました。 ■タイトル: A tumor-microvessel on-a-chip reveals a mechanism for cancer cell cluster intravasation
2025年5月	金沢大学・医薬保健研究域・山本靖彦教授とゲノム生物学研究分野・酒井克也准教授らの共同研究による、社会的行動に関するオキシトシンと補体成分C4aとの関連性に関する研究成果が、Biochemical and Biophysical Research Communications誌に掲載されました。 ■タイトル: Complement component C4a binds to oxytocin and modulates plasma oxytocin concentrations and social behavior in male mice
2025年6月	先端がん治療研究分野・福田康二助教、竹内伸司講師、小谷浩助教、西山明宏助教、坂口裕之助教、大坪公士郎講師、谷口博昭教授らの共同研究による、ARID1A 遺伝子変異によるオシメルチニブ耐性メカニズムの解明とWEE1阻害薬による克服に関する研究成果が、Journal of Thoracic Oncology誌に掲載されました。 ■タイトル: Targeting WEE1 to Overcome ARID1A Mutation-Driven Osimertinib Resistance in EGFR-Mutant Lung Cancer
2025年7月	腫瘍分子生物学研究分野・河野晋助教、高橋智聡教授らと、大阪大学大学院情報科学研究科・岡橋伸幸准教授、松田史生教授、清水浩教授らの共同研究による、RB1がん抑制遺伝子が細胞の分化を制御する新しいメカニズムに関する成果がCell Death and Disease誌に掲載されました。 ■タイトル: RB1 controls differentiation through positive regulation of phosphoglycerate mutases
2025年8月	がん・老化生物学研究分野・馬場智久准教授、隈本宗一郎特任助教らと、遺伝子・染色体構築研究分野・平尾敦教授らの共同研究による、相反する細胞周期シグナルによる細胞傷害活性の誘導を基盤とした急性骨髄性白血病に対する新規治療法に関する研究成果が、Cell Death & Disease誌に掲載されました。 ■タイトル: Enlarged PML-nuclear bodies trigger conflicting cell cycle signal-mediated cytotoxicity in leukemia cells
2025年8月	大阪大学大学院情報科学研究科・岡橋伸幸准教授、松田史生教授らと、腫瘍分子生物学研究分野・高橋智聡教授、河野晋助教らの共同研究による、バイオテクノロジーと情報技術を融合した代謝解析技術によるがん細胞エネルギー代謝の数値化・予測に関する研究成果が、Metabolic Engineering誌に掲載されました。 ■タイトル: Metabolic flux and flux balance analyses indicate the relevance of metabolic thermogenesis and aerobic glycolysis in cancer cells
2025年8月	金沢大学・医薬保健研究域医学系・倉知慎教授らと、免疫環境ダイナミクス研究分野・田辺和助教らの共同研究による、転写因子 BATF と IRF4 の相互作用による CD8 陽性 T 細胞エフェクター分化制御に関する研究成果が、Cell Reports誌に掲載されました。 ■タイトル: The transcription factor BATF pioneers the differentiation program of effector CD8+ T cells through the interaction with IRF4

少し足を延ばして

石川の歴史探訪

小松市の石切り場「日本遺産(Japan Heritage)」

石川県小松市は、白山の火山灰に由来する灰緑色をした滝ヶ原石、黄色に帯びた日華石などに代表される凝灰岩の産地として知られ、古くは飛鳥時代の古墳(河田山古墳群)の石室に鶴川石(ハニベ蔵院の近くの石切り場)が使われていた



滝ヶ原(アーチ石橋群)



観音下石切り場

そうです。これらの石材は加工しやすく耐久性も高いことから、金沢城や小松城の石垣や国会議事堂を代表として、建物の土台、堀や壁、門、石橋、浴室、水場、墓石など、さまざまな用途で利用されてきました。また、花坂山で採石される花坂陶石は九谷焼の原石として現在も石川県の伝統産業を支えています。滝ヶ原石の産地である滝ヶ原町には、アーチ型石橋が現存しています(写真)。里山自然学校こまつ滝ヶ原の石文化探索ガイドツアーには石切場と石橋を巡るコースも設定されていますので是非ご利用ください(https://satoyama-komatsu.com/about/culture_of_stones/30minutes_tour/)。小松市の石にまつわる産業・文化・伝統は、2016年度の「日本遺産(Japan Heritage)」に文化庁より認定されています。「日本遺産(Japan Heritage)」 https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/ 地域型認定ストーリー27、「『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」

©石川県観光連盟

那谷寺



霊峰白山は、奈良時代の修験道の僧である泰澄（たいちょう、682年7月20日-767年4月20日）が登拝して以来、信仰を集め、2017年に開山1300年を迎えました。岩屋寺（後に「那谷寺」に改名）は、この泰澄により創建されました。大河ドラマ「光る君へ」にも登場した藤原兼家の策謀により退位・出家させられた花山天皇は、比叡山や那智山で修行した後、和歌山、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、岐阜と2府5県にまたがる西国三十三所の観音霊場の巡拝（西国三十三所観音巡礼）を行いました。717年、花山天皇は岩屋寺を参詣した際に、那智山と谷汲山からそれぞれ一文字ずつ「那」と「谷」を取り、「那谷寺」と改名したと伝えられています（那谷寺公式HP: <https://natadera.com/>）。



1689年8月5日、松尾芭蕉が参詣した折、俳句、「石山の 石より白し 秋の風」を詠み、おくのほそ道では“奇石さまざまに古松植ならべて、萱ぶきの小堂岩の上に造り、かけて殊勝の地なり。”と、那谷寺を表現したとされます。

石川県立航空
プラザ

小型飛行機からジェット戦闘機まで17機を展示する実機展示場、2019年3月に運航終了したB-747政府専用機の貴賓室、YS-11フライトシミュレーターがあり、大人も楽しめます。（https://komatsu-ccf.x0.com/culture/aviation_plaza/）



海上自衛隊の練習機：富士KM2



海上自衛隊の対潜ヘリコプター：HSS-2B



戦国時代など戦乱により那谷寺は何度も焼かれ、荒廃していたところ、1641年に誕生した第4代将軍徳川家綱の生誕祝に前田利常が、再建（1642年）したと伝えられています。写真は、胎蔵界大日如来を安置する三重塔で、1941年に国宝指定、1950年8月29日に重要文化財に指定されました。



日本自動車
博物館

日本自動車博物館は、20世紀に日本国内で活躍した車を中心に、各地より収集した自動車（日本最大級の常時約500台）を当時の状態のまま展示しています。運営は、富山県小矢部市に本社を置く、石黒産業株式会社が行っており、1978年に当時の社長であり、自動車愛好家である前田彰三が、富山県小矢部市にて日本で初めての自動車博物館として開館いたしました。1995年に現在の石川県小松市に移転されました（日本自動車博物館のHPより：<https://www.motorcar-museum.jp/>）。

「©石川県観光連盟」

石川県立航空プラザ

小松空港

日本自動車博物館

那谷寺

加賀温泉駅

滝ヶ原アーチ橋郡

滝ヶ原石切場跡

河田山古墳群

ハニベ蔵院

小松駅

観音下石切り場

[文：遠藤]

